

# いろいろな音のひびきをかんとろう

日時：10月19日（木）第6校時  
 学年：第3学年 17名  
 指導者：小川 真里

糸崎小学校で育てようとする資質や能力及び態度

\* は今年度の重点項目

【知識】知識 情報

【スキル】①課題発見・解決能力 ②思考力・判断力・表現力 ③コミュニケーション能力

【意欲・態度】④主体性・積極性 ⑤回復力 ⑥協調性・柔軟性

【価値観・倫理観】⑦自らへの自信

## 1 単元について この単元は

児童は

本単元は、小学校学習指導要領の音楽第3学年及び第4学年の内容A表現（3）ア「いろいろな音の響きやその組み合わせを楽しみ、様々な発想をもって即興的に演奏すること。」及び、イ「音を音楽に構成する過程を大切にしながら、音楽の仕組みを生かし、思いや意図をもって音楽を作ること。」を主な指導事項とし、[共通事項]の音色、強弱、音の重なり、反復、変化を受けて設定している。

教材曲「おかしなすきなまほう使い」は、歌と朗読によって描かれている。朗読の中に児童が作った魔法の音を鳴らす場面がある。音や音楽の創作的な活動を加えたりすることによって、様々な表現を見出すことのできる曲である。

本学級の児童は、音楽が好きな子が多く、伴奏に合わせて元気よく歌ったり、リコーダーを楽しみながら演奏したりすることができる。毎時間の始めは、「リズムリレー」を行ったり、ハ長調の終止形を作ったりして、音楽を作る楽しさを感じながら学習に取り組んでいる。しかしその中で、友だちの表現のよさに気付くことはできても、音自体を注意深く聴くことは出来ない児童が多くいる。またリコーダー演奏も、音色の違いを感じ取ることが出来ない児童も多くいる。

### 指導の手立て

本単元の指導に当たっては、グループで音の強弱や組み合わせ、重ね方を工夫しながら、様々な表現に気付き、「まほうをかけるときの音楽」を作る。授業の導入で、前時に作った自分の「まほうをかけるときの音」を歌に合わせて演奏させる。この音をグループで音楽に変えることを確認して課題意識を強くもたせ、主体的に学習に取り組ませる。そこで、友だちの作った音色や自分との重なりによって生まれた響きを感じ取り、音の組み合わせや表現を工夫して、自分たちのイメージに合う「まほうをかけるときの音楽」に向けて課題を解決していくための力を育成していく。

また、自分たちのイメージを構造化させるための手立てとして、ピラミットチャートを活用する。音楽の創造的な活動を、線や図、言葉を使って友だちと楽しみながら繰り返し音を音楽へと構成し、出来上がった音楽を表現することで、やり遂げた自らへの自信を高めさせたい。

## 2 単元目標と評価規準

観点	目標	評価規準
関心 意欲 態度	○楽器の音の特徴や音色の違いを生かして、イメージに合う音を表現しようとしている。	楽器の音の特徴や音色を生かした即興的な表現に進んで取り組もうとしている。
創意 工夫	○音色やその重なりを聴き取り、それらを生み出すよさや面白さを感じ取って、楽器の音の組み合わせや重ね方、反復の仕方などを試行錯誤し、自分のイメージに合う「まほうの音楽」を作ることができる。	音色やその重なりを聴き取り、それらが生み出すよさや面白さを感じ取って、楽器の音の組み合わせや重ね方、反復の仕方などを試行錯誤し、自分のイメージに合う「まほうの音楽」を作るための考えや願い、意図を持っている。
	○楽器の音の特徴や音色の違いを感じ取りながら、互いの楽器の音を聴いて音を合わせて演奏することができる。	音の重ね方や反復、変化など音楽の仕組みを生かして、音を音楽に構成している。
鑑賞 の 能力		音楽を形づくってる要素の働きが生み出すよさやおもしろさなどを感じ取りながら聴いている。

3 本単元で育てる資質と評価規準

	資質・能力・態度	評価規準
【知識】	知識	歌詞や朗読から場面が想像できる。4分の4拍子の意味が分かり、拍を感じ、自分の声を聴きながら歌唱している。
【スキル】	① 課題発見・解決能力	打楽器の持ち方や打ち方、響きの長さや音色の変化に気付いている。
【意欲・態度】	④主体性・積極性	自分の音と友だちの音を組み合わせたり重ねたりし、みんなのイメージにより近づく音楽になるように表現を工夫したり試したりしている。
【価値観・倫理観】	⑦自らへの自信	求める表現に向かって、試行錯誤したり繰り返し練習したりすることで、自信を持って魔法の音楽を体感している。

4 指導計画とルーブリック (本時 4/5)

時	学習活動	ルーブリック		資質	思考ツール
		S	A		
1	「おかしなすきなまほう使い」 ・CDの演奏を聞く。 ・歌詞を朗読する。 ・歌詞が表す場面を思い浮かべながら、歌い方を工夫する。	歌詞を朗読してどのような場面かを想像し、場面にふさわしい歌い方を工夫することができる。	歌詞を朗読してどのような場面かを想像しながら、歌うことができる。	①	
2	「おかしなすきなまほう使い」 ・CDに合わせて歌う・ ・打楽器の音の特徴や鳴らし方知る。 ・「まほうをかけるときの音のもと」作りをする。	様々な打楽器に興味を持ち、自分のイメージに合った「まほうをかけるときの音のもと」を何通りも思い付くことができる。	様々な打楽器に興味を持ち、「まほうをかけるときの音のもと」をイメージすることができる。	④	アイデアを出す 広げてみる イメージマップ
3	「おかしなすきなまほう使い」 ・CDに合わせて歌う。 ・自分に合った打楽器を決める。 ・「まほうをかけるときの音」作りをする。	自分のイメージに合った打楽器を決め、場面に合う音色や響きなど表現することができる。	自分のイメージに合った打楽器を決め、音作りをすることができる。	④ ⑤	アイデアを出す 広げてみる イメージマップ
4	「おかしなすきなまほう使い」 ・CDに合わせて歌いながら「まほうをかけるときの音」を入れる。 ・グループで「音」から「音楽」を作る。	打楽器を使って、自分たちのイメージに合うように、音の組み合わせや重なり、強弱や響きを工夫して「まほうをかけるときの音楽」を作ることができる。	打楽器を使って、自分たちのイメージに合うように「まほうをかけるときの音楽」を作ることができる。	④ ⑤	構造化する ピラミットチャート
5	「おかしなすきなまほう使い」 ・グループで作った「まほうをかけるときの音楽」を入れて、「おかしなすきなまほう使い」の音楽表現を楽しむ。	自分たちの音楽を自信を持って発表できる。	友だちと一緒にグループの音楽を発表できる。	⑦	評価する PMI分析表

十月 十九日(木) 六校時 指導者 小川 真里  
 三原市立糸崎小学校 三年 一組  
 音楽科「いろいろな音のひびきをかんとろう」  
 第六時

# 授業構成図

**本時のねらい**  
 音の組み合わせや重ね方を工夫して「まほうをかけるときの音楽」を作ることができる。  
 キャリア教育の視点☆  
 友だちと協力して、イメージに合う音楽を表現することができる

**目指す子どもの姿**  
 S いろいろな打楽器を使って、自分たちのイメージに合うように工夫して音楽を作ることができる。友だちの班の工夫にも気づくことができる。  
 A いろいろな打楽器を使って、自分たちのイメージに合うように工夫して音楽づくりができる。

**振り返りの場面**  
**Aだと判断した子どもの発言**  
 私はAだと思います。自分たちのイメージに合うように工夫して音楽を作ることができたからです。でも友だちの班の工夫を見つけたことではできなかったからAです。  
**Sにするために**  
 友だちの班の発表をしっかりと聴いて、どんな工夫をしているのか見つけることができましたよと思います。

見通しや実行方法を発想する場面

⑤ **ピラミッドチャート**を基に**自分の音をグループで一つの音楽にする。**  
 T自分たちのイメージに合うように工夫してもっと楽しい音楽にしてみよう。☆  
 C私は、キラキラした感じにした

C いいね。星がキラキラながれるような感じにしようよ。  
 C 順番に鳴らしてみるのはどうか。いろいろな音が重なっていくのをやってみよう。  
 C いいね。一番工夫するところは音のかさなりにしようよ。  
 C それいいね。☆

⑥ **成果を聴きあう。** ☆  
 C 1班は、音がだんだん重なっていったのでよかったです。僕たちも真似したいです。  
 C 2班は、楽器の組み合わせがおもしろかったです。速さも工夫してあってよかったです。  
 C 3班は、音を伸ばしながらだんだん強い音にしたり弱い音にしたりしていたので、びっくりしました。本当にまほうがかかったみたいなき感じでした。

⑦ **大切なことをまとめる。**  
 T音楽づくりの技は何でしょう。  
 C音の重なりです。  
 C組み合わせです。  
 C音の強さ弱さです。  
 C速さです。

⑧ **振り返り**  
 C班の友達とイメージに合うように音の重なりを工夫してまほうの音楽を作ることができました。私は2班の速さの工夫を見つけました。いいなと思つたので今度音楽づくりをする時はまねしたいです。

対象と既有的の知識とを関連づけ、対象が生じる原因を類推

課題を見出す場面

① **自分が作った「まほうの音」を入れて「おかしなすきなまほう使い」の曲を歌う。**  
 T何に気を付けて演奏しましたか。  
 C楽しく歌ったり楽器の鳴らし方を自分のイメージに合うようにしたりして演奏しました。

② **もっと楽しくまほうがかけれないか考えさせる。**  
 Tもうこれでみんなの思うまほうがかかったかな。  
 Cできました。  
 Cでも一斉になったらよく分かんかった。  
 Cもつと自分の音も聞いてもらいたいし、友だちの音を聞いてみたい。  
 C何人かずつで演奏してみたいです。  
 T何人かずつで演奏したらほかにどんないいことがあるかな。  
 Cいろいろな音が重なるから楽しい音楽になると思います。  
 C順番に鳴らすことができます。  
 Tイメージが広がって本当にまほうがかかりそうだね。  
 C **学習課題をたてる。**  
 いろいろな打楽器を使って、友だちとイメージを広げて「まほうをかけるときの音楽」を作ることができる。

③ **ループリックの設定をする。**  
 Cいろいろな打楽器を使って、自分たちのイメージに合うように工夫して音楽を作ることができました。Aだと思います。  
 Cそれに友だちの班の音楽を聴いてどんな工夫をしているか見つけることができました。Sだと思います。  
 ◆自分の音がグループで合わせて音楽になることを説明する。

対象と既有的の知識との「ズレ」を認識



